

機関番号：3 2 6 1 2

研究種目：基盤研究 (C)

研究期間：2008～2010

課題番号：2 0 5 2 0 0 3 0

研究課題名 (和文) 神秘主義のエロース的形態のギリシア古代末期・イスラーム哲学
比較研究研究課題名 (英文) A Comparative Study of Erotic Mysticism between Later Ancient Greek
Philosophy and Islamic Philosophy

研究代表者

堀江 聡 (HORIE SATOSHI)

慶應義塾大学・文学部・教授

研究者番号：40238788

研究成果の概要 (和文): 古代ギリシア哲学と中世イスラーム哲学から代表的な哲学者、思想家のテキストを分析し、神秘主義的のエロース的形態の議論を比較し、ギリシア哲学からイスラーム哲学への変容の過程を明らかにした。具体的には、プロティノス、イアンブリコス、ガザーリー、イブン・アラビーのエロース観、女性観について、4人の思想家を相互に比較した。

研究成果の概要 (英文): We analyzed the texts of representative philosophers of ancient Greek and medieval Islam, and clarified discussions of Erotic Mysticism and the process of transformation from ancient Greek philosophy to Islamic philosophy. Concretely, we treated views of eros and women of Plotinus, Iamblichus, al-Ghazali, and Ibn al-Arabi, and compared these four philosophers' thoughts each other.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2008年度	1,500,000	450,000	1,950,000
2009年度	1,100,000	330,000	1,430,000
2010年度	900,000	270,000	1,170,000
年度			
年度			
総計	3,500,000	1,050,000	4,550,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：哲学・哲学・倫理学

キーワード：哲学、神秘主義、ギリシア、イスラーム

1. 研究開始当初の背景

古代ギリシア哲学のみならず、イスラーム、中世ユダヤ思想までを視野に入れた哲学史の先行研究は国内外においてほとんどない。古代ギリシア哲学研究者は、イスラームまでは扱い切れないし、イスラームを専門とする研究者は、本来必須であるにも拘らず、古代ギリシア哲学の文献を参照していない。こうした状況の中で、広範囲の文献を渉猟し、古代ギリシアとイスラーム哲学の連動を神秘主義のエロース的形態という一断面であれ、比較研究に着手することは、哲学思想研究の新たな分野を切り開くという点で、とくに本

邦で萌芽的な学術的価値が認められよう。

「エロース的形態の神秘主義」とは、erotische Mystikの井筒俊彦による訳語であり、ヘブライズム的な人格神を慕う人間の情念が濃厚に表面に現れる神秘主義の一表現形態である。いわゆる西洋哲学史では、旧約聖書「雅歌」解釈の伝統に沿って、オリゲナス、ニュッサのグレゴリオスといった諸教父から、12世紀はクレルヴォーのベルナルを経由し、16世紀スペインの十字架のヨハネに窮まる命脈を形成する。その際、プラトン『饗宴』『パイドロス』、アリストテレス『形而上学』巻に由来する哲学的伝統を融合し、

とりわけ、紀元後3世紀のプロティノスの新プラトン主義的大胆な語り口を接收しつつ、壮大な表現形態へと飛躍したものである。

神秘主義のエロース的形態というテーマを取り上げたのは、神(一者)と人間靈魂の合一は新プラトン主義哲学およびイスラーム哲学(とくにスーフイズムの神秘哲学)の中心的テーマだからである。人間靈魂は現象界から上昇して神との合一に至るが、哲学者のテキストではその合一について男女間の恋愛の比喩が用いられることがある。神との合一を肉体的精神的愛関連の術語で表現したテキストを分析し、神秘主義のエロース的形態を明らかにすることは、新プラトン主義哲学の理解のために意義のあることである。しかしこのエロース的形態について古代ギリシア哲学ではプラトン、アリストテレスにおける研究、イスラームではイブン・アラビーの研究は若干あるものの、網羅的な研究は少ないのが現状である。

2. 研究の目的

529年アカデメイアが閉鎖され、終焉したかにみえるギリシア哲学は、地中海を時計回りにイスラーム世界経由で(9世紀バグダード、12世紀アンダルシア地方などを次々と拠点にして)変貌を遂げつつ、西欧中世世界に不死鳥のごとく還流する。神秘主義のエロース的形態に関する原典を徹底に解釈し、最新の第二次文献への目配りも怠りなく、現在の西洋思想の根幹を決めたギリシア哲学のアラブ・イスラーム文化での成長過程を追跡する世界的な先端研究を行うことが本探求の趣旨である。

3. 研究の方法

分析対象に精選したものは、古代ギリシア哲学の総決算とも言うべき神秘道の達人プロティノス(205-270年)と、彼とは別傾向で、絶対他力本願の救いを力説するイアンブリコス(240/5-320/5年)、イスラームにおけるその継承者であり、一挙手一投足、祈りの外では生きられない熾烈な生を見せつけたガザリー(1111年没)及び、翻訳すらない大著『メッカ啓示』で研究者の安易な接近を阻むイブン・アラビー(1240年没)である。

1年目と2年目においては、研究代表者の堀江と分担者の青柳が、それぞれの専門分野である古代ギリシアとイスラーム哲学のテキストを読解し、分析する。そして一応の和訳ができたところで、二人で翻訳を検討、修正し、共訳を雑誌に掲載する。

堀江聡の担当:主にプロティノス(205-270年)の第50論放(III,5)「愛について」、第38論放(VI,7)「いかにしてアイデアの多が存立したか、及び善について」、第9論放(VI,9)「善なるもの、一なるもの」、第19

論放「徳について」、第53論放「生きものとは何か、そして、人間とは何か」第47・48論放「摂理について」、イアンブリコス(240/5-320/5年)の『エジプト人の密儀について』

青柳かおるの担当:主にガザリー(1111年没)の代表作『宗教諸学の再興』、『幸福の錬金術』、『光の壁龕』、『神名注釈における高貴な目的』、イブン・アラビー(1209年没)の『メッカ啓示』と『叡智の台座』

3年目には2年間に蓄積したテキストの解釈をもとに、古代ギリシアからイスラームへの変容を明らかにする。

4. 研究成果

古代ギリシアの哲学と中世イスラームの哲学から代表的な以下の哲学者、思想家のテキストを分析し、エロースの議論を比較し、変容の過程を明らかにした。

(1)ギリシア古代末期の哲学者、プロティノスとイアンブリコスのエロース観を分析、比較することにより、新プラトン主義におけるエロース的形態の所在を指摘し、そのヴァリエーションをも明らかにした。

(2)哲学を批判的に摂取した、イスラーム神秘主義者のガザリーと、新プラトン主義的流出論を取り入れ存在一性論を唱えたイブン・アラビーを比較し、イスラーム哲学におけるエロース的形態の特徴を明らかにした。

(3)上記4人の哲学における神秘主義のエロース的形態を比較し、ギリシアからイスラームへの影響の程度、変容の度合いを測定し、ひいては諸形態の共存可能性、止揚可能性についても哲学的に考究した。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計16件)

Kaoru AOYAGI, "A Comparative Study of Marriage in Islamic Thought: Al-Ghazali and al-Qaradawi," T. Kurihara ed., *Glauben und Wissen in der Geistesgeschichte*, Niigata: Niigata University, 2011, 31-54, 査読有

青柳かおる「イスラームの生命倫理における胚の形成過程の問題」『比較宗教思想研究』第11輯, 2011年, 1-16. 査読なし

堀江聡「プロクロス『神学綱要』の活動還帰と実体還帰」『新プラトン主義研究』第10号 2010年, 7-16. 査読有

堀江聡「異境探訪 新プラトン主義者の足跡を訪ねて」『創文』第535号 2010年, 6-10. 査読なし

堀江聡「井筒俊彦『神秘哲学』解題」井筒俊彦『神秘哲学 ギリシアの部』慶應義塾大学出版会、2010年、527-537. 査読なし

堀江聡(西村洋平との共訳)「ポルフュリオス『新プラトン主義命題集成センテチアエ 知性的なものへの跳躍台』第33-44章邦訳」『西洋古典研究会論集』19, 2010年、53-76. 査読有

堀江聡「イアンプリコス『普遍数学論』第1-13章邦訳」『新プラトン主義研究』10, 2010年、141-177. 査読有

堀江聡「プロクロス『悪の存立論』第1-28章邦訳」『新プラトン主義研究』10, 2010年、179-215. 査読有

青柳かおる「イスラームの婚姻論比較研究 ガザリー、イブン・アラビー、カラダーウィー」『東洋学術研究』第49巻第2号、東洋哲学研究所、2010年、105-121. 査読有

青柳かおる「スーフィズムにおける修行と身体」栗原隆・辻元早苗・矢萩喜從郎編『空間と形に感応する身体』東北大学出版会、2010年、115-142. 査読有

堀江聡「ペトルス・ニコラウス羅訳『アリストテレスの神学』第十二章[62v]-[72r]」『慶應義塾大学言語文化研究所紀要』第40号、2009年、91-117. 査読なし

堀江聡(西村洋平との共訳)「ポルフュリオス 新プラトン主義命題集成センテチアエ 第1-32章」『日吉紀要 言語・文化・コミュニケーション』41, 2009年、155-181. 査読なし

堀江聡「プロティノス哲学体系にみられる愛の階梯」『宗教研究』363号、2009年、249-250. 査読なし

青柳かおる「ガザリーの「婚姻作法の書」にみられる妻の条件」『駒澤大学佛教学部論集』第40号、2009年、235-255. 査読なし

青柳かおる「古典時代と現代におけるイスラームの婚姻論比較研究 ガザリーとカラダーウィー」『史潮』第63号、2008年、64-81. 査読有

青柳かおる「ガザリーにおける二つの欲望」『駒澤大学佛教学部論集』第39号、2008年、29-45 (510-494). 査読なし

〔学会発表〕(計13件)

青柳かおる「アラビア語の子音表記と母音符号の問題」第40回新潟大学言語研究会研究発表会、於新潟大学人文学部、2010年12月22日.

堀江聡:「プロティノス第六論攷「魂の肉体への降下について」2010年度新プラトン主義協会大会、鹿児島純心女子短期大学、2010年9月25日.

青柳かおる「イスラームの婚姻論 ガザリー、イブン・アラビー、カラダーウィー」第4回新潟哲学思想セミナー、於新潟大学人文学部、2010年4月1日.

堀江聡「新プラトン主義へのいざない 机上から旅へ」大学院特別講演、於日本大学文理学部哲学科、2010年1月20日.

堀江聡「中世の東地中海世界 文明の交差路に立って 古代の叡知 ヘレニズム思想の遺産」講座「中世の東地中海世界」、於朝日カルチャーセンター横浜、2009年11月7日.

青柳かおる「イスラームの婚姻論 ガザリー、イブン・アラビー、カラダーウィー」第5回イスラーム・レクチャー、於東洋哲学研究所、2009年10月30日.

堀江聡「プロティノス哲学体系にみられる愛の階梯」日本宗教学会第68回学術大会、於京都大学、2009年9月13日.

堀江聡「“ 範型 ” としてのプロクロス『神学綱要』」2009年度新プラトン主義協会大会、於大阪府立大学、2009年9月5日.

青柳かおる「古典時代と現代におけるイスラームの比較婚姻論」中東調査会・日本イスラーム協会共催、第11回イスラームとイスラーム諸国「理論と動向研究会」、於日本記者クラブ大会議室、2009年1月21日.

堀江聡 「アラビア哲学に於ける新プラトン主義的神秘主義のメタモルフォーシス 9世紀バグダードの改作『偽アリストテレスの神学』、長大版・同『神学』、イブン・スィナー『治癒の書』、スフラワルディー『照明哲学』との比較」東洋哲学研究所2008年度下半期定期例会、於創価大学、2008年12月23日.

堀江聡「イアンブリコスにおける神的愛の紐帯、播種された「しるし」」日本宗教学会第 67 回学術大会，於筑波大学，2008 年 9 月 14 日。

6 . 研究組織

(1)研究代表者

堀江 聡 (HORIE SATOSHI)
慶應義塾大学・文学部・教授
研究者番号：40238788

(2)研究分担者

青柳 かおる (AOYAGI KAORU)
新潟大学・人文社会・教育科学系・准教授
研究者番号：20422496

(3)連携研究者

竹下 政孝 (TAKESHITA MASATAKA)
東京大学・人文社会系研究科・教授
研究者番号：30163398

鎌田 繁 (KAMADA SHIGERU)
東京大学・東洋文化研究所・教授
研究者番号：70152840